

研究会報告

イリュージョン研究会 日本心理学会第74回大会ワークショップ共催

木村 敦(幹事/東京電機大学)

坂田 勝亮(主査/女子美術大学)

イリュージョン研究会では、2010年9月22日(水)に日本心理学会第74回大会(大阪大学豊中キャンパス)にて開催されたワークショップ「WS081色彩心理学の展開——若手研究者からの提言——」を共催しましたので、ここに報告致します。

本ワークショップは、色彩に関する心理学研究に取り組む若手研究者に、自身の問題意識、研究実践、その基礎的・応用的意義などについて話題提供していただき、色彩・人間科学研究領域における今後の展開を議論することを主旨としました。イリュージョン研究会の高橋晋也(名古屋大学)、坂田勝亮(女子美術大学)、木村敦(東京電機大学)が企画し、当日の司会は高橋氏が担当しました。

話題提供者は日本色彩学会・日本心理学会の両学会員である大学院生3名に行なっていただきました。まず、東京大学大学院の筒井亜湖氏に「美的評価における色要因の効果——絵画から配色まで——」という題目にて、絵画や多色配色に対するhedonic toneや面白さといった感情効果に、認知的要因および色彩・配置要因が及ぼす影響について発表していただきました。次に、名古屋大学大学院の牧野暁世氏に「感性語(オノマトペ)による色彩印象」という題目にて、オノマトペ(“きらきら”や“ざらざら”といった擬音語)から連想される色彩について体系的に検討されたご研究をご紹介いただきました。続いて、早稲田大学大学院の若田忠之氏に「感情効果に基づく色と香りの調和」と題して、色と香りを共通の感情空間にプロットし、色と香りの調和・不調和感とその感情空間内における座標近似と関連するというご自身の研究成果を発表いただきました。その後、イリュージョン研究会の北岡明佳氏(立命館大学)が指定討論を行い、色彩の心理学研究の意義を再確認するとともに、それらの成果を世界的な舞台上でアピールしてゆくことの重要性と使命感について話題提供者とフロアにエールを送って下さり

ました。

なお、当日は約50名の聴講者(日本色彩学会・日本心理学会の各・両会員を含む)にご来場いただき非常に盛況な会となりました。全体討論ではフロアからも活発な発言が飛び交い、個々の研究に対する質疑から色彩科学研究の行く末まで、全体質疑時間に収まりきれないぐらい議論が続いたことがとても印象的でした。

このように本ワークショップが盛況のうちに終わりましたことを、話題提供者・指定討論者の先生方、および参加者の皆様、関係各位にお礼申し上げます。

また来年も皆様にお会いできることを楽しみにしております。



図1 会場の様子

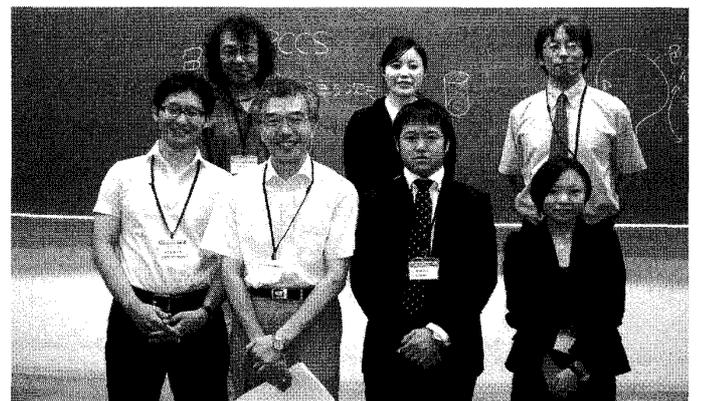


図2 スタッフ集合写真